

生徒指導 ～愛着障害の理解と支援～

児童生徒の問題行動の背景が複雑化し、寄り添った指導をしようとしても、なかなか本人の内省が難しいケースが見られます。その背景の一つに愛着障害が原因と考えられる事例があります。

8月6日に上越地区特別支援教育研究大会北部大会で、米澤好史氏（和歌山大学教育学部教授）の講演「発達障害と愛着障害の理解と支援」をお聴きしました。この時の内容から「愛着障害」について紹介します。

「愛着」の基本原則とは、特定の人と結ぶ情緒的なこころの絆である。

- 1 愛着障害は、①どの家庭でも、誰にでも起こり得る。②生後の人との関係性から生じてくる。③手遅れということはなく、いつでも修復可能である。④親だけでなく、誰にでも愛着形成や修復ができる。
- 2 愛着を形成するための手法として3つの基地を機能させる。①安全基地…子どもが怖い、嫌だなど思っても「だいじょうぶだ」と感じられる場所、②安心基地…その人と一緒にいると落ち着く、楽しいと感ずることができる場所、③探索基地…母子分離し、精神的自立ができるような場所。
- 3 愛着修復プログラムには4つのフェーズがある。①その子にかかわるキーパーソンが子どもの気持ちを代弁する。②子どもを主体としつつ、先手支援で主導権を握る。③他者との関係を作るための橋渡し支援をする。④キーパーソンが変わるときは、十分な確認をする。この4つのフェーズを行きつ戻りつの支援を行うことで、愛着が形成されていく。

事例など、詳しい内容を知りたい方は、「事例でわかる愛着障害」（米澤好史著）等をご覧ください。

上越市教育委員会では、重大な問題や課題解決困難な問題に対し、よりよい解決方法を目指して学校に指導・助言しています。学校訪問カウンセラーや、県のスクールカウンセラーが、定期的に学校を訪問して、児童・生徒・保護者と面談を行っています。また、教育委員会内に配置されているJAST（じょうえつ・あんしん・サポート・チーム）が支援を行っています。全ての児童生徒が安心して健やかに成長できるよう、これからも関係機関と連携しながら対応していきます。

（担当 学校教育課指導主事 小山）

「所報」は、教育センターのホームページでも公開しています。ご覧ください。

GIGAスクール元年 ～学びが変わる 学校が変わる～

1 はじめに

GIGAスクール構想で、児童生徒に1人1台の情報端末（iPad）と高速大容量の通信ネットワークを小中学校の全ての普通教室に整備しました。

情報端末は、多様なアプリケーション（アプリ）を使うことができます。写真や動画を撮る、文章を書く、絵を描く、計算する、グラフを作る、プレゼンテーション資料を作るなどを行うことができます。また、通信ネットワークを使うことにより動画を見る、Web会議を行う、インターネットを経由してデータを共有したり保存したりすることなども可能です。

この情報端末が学校に導入されたことにより、授業が大きく変わろうとしています。また、子どもの学びも変わろうとしています。どのように授業や子どもの学びが変わろうとしているのか、現在進められている各学校の実践の様子を交えながら、新しい学びの可能性を紹介します。

2 各学校の実践の紹介

ICTを活用した学習場面は、以下のように大きく3つに分類されます。

「学校におけるICTを活用した学習場面」

A 一斉学習

A1：教員による教材の提示



B 個別学習

B1：個に応じる学習

B2：調査活動

B3：思考を深める学習

B4：表現・制作

B5：家庭学習



C 協働学習

C1：発表や話し合い

C2：協働での意見整理

C3：協働制作

C4：学校の壁を越えた学習



「学びのイノベーション事業実証研究報告書」
(文部科学省) より

市内小・中学校の

B1 **個に応じる学習**
クイズアプリを使って、英文の並べ替えや元素記号などの練習問題を行う。



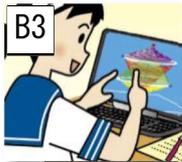
ALT の発音や自分の発音を録音し、繰り返し再生して、確かめる。

B2 **調査活動**
植物の成長を連続して写真に記録する。



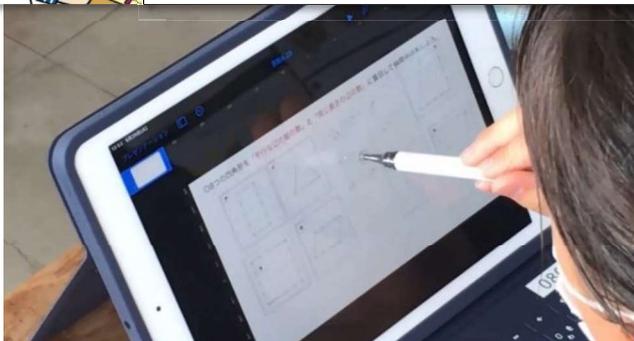
写真に記録して、メダカの雌雄の特徴を学ぶ。

ICTを活用した学習



思考を深める学習

デジタルワークシートを使って、画面上で図形を移動したり、線で囲んだりして仲間分けを行う。



表現・制作

クリーンセンターの見学で気付いたことを、見出しや画像を工夫してスライドにまとめる。



発表や話し合い

写真や動画を使い、分かりやすくなるよう表現を工夫してまとめ、伝える。



学校の壁を越えた学習

Web 会議を使って、他校と交流して多様な考えを知ったり、外部専門家から専門的な知識を得たりする。



3 新しい学びの可能性

これまでの観察や実験では、シートやノートに絵や文章で記録してきました。紙に絵・図・文等で表すことは、対象をしっかりと観察し、自分の気付きや考えを深める上で大切な学習です。これらの観察や実験に、情報端末を使うことにより、さらに今までとは異なる学習も可能になりました。

例えば、野菜の写真や実験の動画は後から見返すことができます。拡大表示して色や形を細部にわたって詳しく調べたり、今まで撮りためてきた写真を比較し変化を確認したりすることができます。気付かなかったことに自ら気付いたり、他の児童生徒と同じ資料を基に話し合うことを通して、自分の見方や考え方を広げたりすることができます。

また、検索は、今までもコンピュータ室のパソコンで行うことができました。今までとの大きな違いは、情報端末が一人一人の児童生徒の手元にあることです。いつでも調べたいときに調べたいだけ検索することができます。検索した内容に関連する事柄がリンクされている場合が多く、ワンクリックでさらに関連する必要な情報を得ることもできます。つまり、児童生徒が自ら知りたいと望めば望むだけ調べることができるということです。単元、学年、学校の学習内容を超えて学ぶことも可能になりました。

他にも、画像や動画を効果的に取り入れたプレゼンテーション、Web 会議による学校の壁を越えた交流など、ICTだからできる学習活動が創意工夫により広がっています。

4 おわりに

学校教育において、今まで以上に「知りたい」「調べたい」「もっと学びたい」という学びに対する姿勢が大切になってきました。児童生徒が、呼吸するように、必要な情報を検索できる力を育むとともに、物事に対する知的好奇心、自らの個性を伸ばそうとする向上心、新しい知識や技能を貪欲に吸収しようとする意欲等を育てることが、ますます重要となってきたと言えます。

自分にとって必要な情報を取捨選択して活用する力、情報端末をコミュニケーションツールとして活用する力、情報端末を問題解決の道具として積極的に活用する力を育むために、ICT環境の積極的活用を推進していきましょう。



令和3年度 夏期カウンセリング研修



夏期カウンセリング研修にたくさんの方から参加していただきました。
参加者の感想を紹介します。

8月3日(火) 「学級経営研修」 Q-Uの分析を生かした学び合う学級集団づくり

講師 新潟清心女子中学・高等学校 教諭 吉澤 克彦 様

- ◇Q-Uの分析の仕方や学級づくりへの生かし方、構成的グループエンカウンターの実際などを、具体的に分かりやすく教えていただきました。2学期からすぐに活用できる実践的な内容で、大変有意義でした。
- ◇今まで漠然とプロット図を見て、学級の様子を読み取っていました。今回の研修でプロット図が示す本当の意味や学級集団の発達段階について深く考えることができました。また、他校の先生方とのグループワークで自分自身が不安に思っていることや、講義での気づきを再確認することができました。8月下旬の校内Q-U研修に生かしていきます。

8月4日(水) 「教育相談研修」 教師のためのカウンセリング・スキル

～ 子どものこころの不調の見立て方、保護者相談のコツ ～



講師 柏崎市子どもの発達支援課 課長 小林 東 様

- ◇様々な可能性があることを踏まえての、丁寧な「見立て」が大切であることが分かりました。その「様々な可能性」について、自分の知識を広げることができました。
- ◇多様化するニーズ、特に精神疾患などを伴う現代的なニーズに対応するためにとっても参考になりました。「保護者の対応の仕方」では、様々な保護者のタイプによって対応の仕方を変えるなど、具体的な対応の仕方が分かりやすく、今後の保護者対応に生かせる内容でした。子ども保護者共に、学校だけで抱えるのではなく、必要に応じて様々な専門機関と連携してチームで対応することの重要性を改めて感じました。

8月5日(木) 「特別支援教育研修」 発達が気になる児童生徒の理解と指導・支援

～ 通常の学級における特別支援教育 ～

講師 星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 様

- ◇「その子を変える前にまず環境を整える」としたうえで、つまずきに応じた授業づくりのテクニックを学ぶことができました。大変有意義な研修でした。
- ◇かわりあいや人的環境のUDを大切にしながら共感する気持ちや集団肯定感を育てていきたいと思いました。子どもたちが「分かった、できた、楽しい！」と思えるような授業やかわり方等を具体的に工夫していきたいと感じました。



冬期カウンセリング研修

Zoomで行います。



- 12月27日(月) 「生徒指導研修」 教育活動に役立つ認知行動療法
上越教育大学 准教授 田中 圭介 様
- 12月28日(火) 「生徒指導研修」 不登校の予防と支援の実践
東京学芸大学教職大学院 教授 小林 正明 様
- 1月 5日(水) 「特別支援教育研修」 通常の学級における特別支援教育
上越教育大学 准教授 関原 真紀 様

多くの皆さまの参加をお待ちしています！詳細は、配布済みの「職員研修案内」をご覧ください。